

第31回 ITS 世界会議

31st World Congress on Intelligent Transport Systems in Atlanta, 2025

江田裕貴¹ 絹田裕一²

Yuki EDA and Yuichi KINUTA

1 はじめに

ITS世界会議 (World Congress on Intelligent Transport Systems) は、世界3地域を代表するITS団体 (欧州: ERTICO、アメリカ: ITS America、アジア太平洋: ITS Japan) の連携により、毎年開催されている国際会議である。第31回となる2025年度の会議は、アメリカ合衆国ジョージア州アトランタにて、2025年8月24日~28日の日程で開催された¹⁾。アトランタはジョージア州の州都であり、公民権運動の指導者マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの生誕地である。交通分野では、デルタ航空、ノーフォーク・サザン鉄道、ユナイテッド・パーセル・サービス (UPS) などの主要な運輸・物流関連企業が本社を構え、アメリカ南東部の経済・物流の中心都市の一つとなっている。また、複数の州間高速道路や世界有数の利用者数を誇るハーツフィールド・ジャクソン・アトランタ国際空港を有するなど、全米有数の交通結節点でもある。本稿では、第31回会議の概要を報告する。

2 第31回ITS世界会議の概要

第31回ITS世界会議は、Georgia World Congress Center Hall (写真-1) で開催され、61の参加国・地域から約6,000人が参加した¹⁾。会議テーマは「Deploying Today, Empowering Tomorrow」である。

(1) 展示発表

展示発表 (写真-2) には、約225の企業・団体が出展し、各国の行政機関、ITS関連施策の国際団体、自動車メーカー、電気機器メーカー、情報関連企業などによる自らの技術などの展示が行われていた。具体的な展示内容としては、交差点の安全性向上を目的とした画像解析技術や、信号制御に関する展示が数多く見られた。近年のAI・画像解析技術の進展を背景に、交差点における危険挙動の検知や交通流の分析、歩行者・車両の挙動把握な



写真-1 第31回ITS世界会議の会場



写真-2 展示会場の様子

どに対する分析ニーズが高まっているのではないかと推測される。

(2) セッション

本会議のセッションではまず、今後のITS施策の動向や展望などについて登壇者が議論するプレナリーセッションがメインホールで開催され、その後、会場内の各ホールにおいてテーマごとの発表が行われた。

発表では、V2X (Vehicle-to-Everything) を活用した自動運転や安全対策に関する内容が多く取り上げられていた。自動車と歩行者、道路インフラ、他車両などが通信によって連携し、交通安全性の向上や効率的な交通運

¹ 交通・社会経済部門 研究員 ² 交通・社会経済部門 部門長兼グループマネジャー

用を実現する技術が紹介され、多くの聴講者が関心を寄せていた。特に、自動運転技術の社会実装に向けた議論が活発であったことが印象的であった。

また、「今後、自動運転技術が進展したとしても、公共交通サービスでは、不審者・犯罪等から利用者を守るセーフティネットとしての役割も求められるため、完全な無人化には至らず、人間による一定の対応が必要になるのではないか」という意見が挙げられていた点も印象に残った。単なる技術導入にとどまらず、公共交通が担う社会的役割まで含めた議論が行われており、自動運転の普及には、技術面だけでなく、利用者の安心感や社会受容性も重要であると感じた。

3 現地視察

ここでは、アメリカの最新の交通事情として、アトランタへ向かう途中に立ち寄ったサンフランシスコにおいて、無人の自動運転サービスを実際に体験した結果を報告する。

サンフランシスコではWaymo²⁾による完全自動運転タクシーサービスが提供されている(写真-3)。利用方法としては、スマートフォンアプリ上で乗車地と目的地を設定すると、周辺を走行する車両が自動的に配車される仕組みである。車両には多数のカメラやセンサーが搭載され、前方車両の位置だけでなく、歩道を歩く人々やベンチ付近に滞在する歩行者の動きまで認識している様子が確認(写真-4)され、E2Eによる高度な認識技術が導入されていることを実感した。

実際に乗車した自動運転車は、加速・減速や車線変更がスムーズであり、周囲の交通流に合わせた自然な挙動で走行していたことから、高い快適性を有していると感じた。また、乗車前にはアプリ上で車内温度や座席レイアウトを設定することが可能であり、利用者のニーズに応じて車内環境を事前に調整できるなど、利便性に配慮したサービスが提供されていた。

車両はEVであり、定期的にターミナルへ戻り給電しているものと思われる。現在は人手によって充電を行っているものの、EVでは自動充電や走行中給電など、給電の自動化に向けた技術開発が進められている。そのためEV化は環境負荷低減だけでなく、モビリティサービスの省人化との親和性が高く、自動運転技術の普及を支える要素の一つになるのではないかと感じた。



写真-3 Waymoによる完全自動運転タクシー

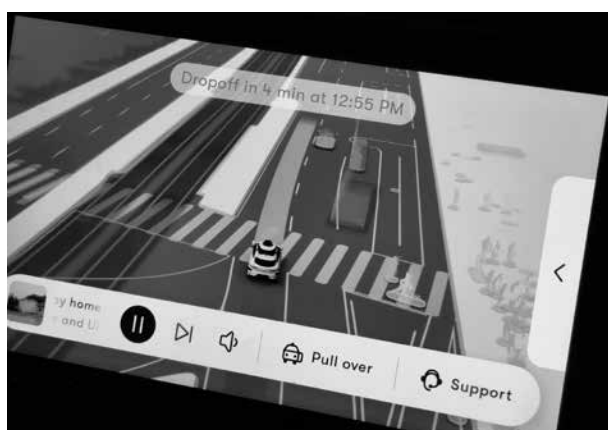


写真-4 周辺の車両や歩行者の認識状況

4 おわりに

次回の第32回会議は、大韓民国江陵において2026年10月19日~23日の日程で開催される³⁾。会議テーマは「Beyond Mobility, Connected World」であり、引き続きITS技術の動向に注視することが重要である。

参考文献

- 1) ITS Japan ウェブサイト,
https://www.its-jp.org/katsudou/its_wc/atlanta_2025/
- 2) AFPBB News ウェブサイト,
<https://www.afpbb.com/articles/-/3111289>
- 3) 第32回ITS世界会議ウェブサイト,
<https://2026itsworldcongress.org/ITS/120002/index.do>